

# NetBackup™ リリースノート

リリース 11.1

# NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2026-01-21

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2026 Cohesity Inc All rights reserved.

Cohesity、Veritas、Cohesity ロゴ、Veritas ロゴ、Veritas Alta、Cohesity Alta、NetBackup は、Cohesity Inc またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Cohesity 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このCohesity製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Cohesity Inc からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity Inc およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Cohesity がオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Cohesity Inc  
2625 Augustine Drive  
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Cohesity Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Cohesity** の **Web** サイトで入手できます。

## Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT)

**Cohesity SORT (Service and Operations Readiness Tools)** は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>NetBackup 11.1 について</b> .....	8
	NetBackup 11.1 のリリースについて .....	8
	NetBackup の最新情報について .....	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について .....	9
<b>第 2 章</b>	<b>新機能、拡張機能および変更</b> .....	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について .....	10
	NetBackup 11.1 の新機能、変更点、拡張機能 .....	10
	Cohesity 用語の変更点 .....	12
	NetBackup 11.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する .....	13
	NetBackup 11.1 の RESTful API .....	14
	NetBackup Web UI の新機能および拡張機能 .....	15
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド .....	15
	Nutanix AHV のインスタントアクセス VM 作成機能のサポート .....	15
	KVM (カーネルベースの仮想マシン) のサポート .....	15
	NetBackup 11.1 のサポートの追加および変更点 .....	16
	NetBackup 11.1 で認定される NetBackup 11.0.0.1 以前のサポートの追加および変更点 .....	17
	Cohesity は、11.1 リリース以降、Java 管理コンソールを NetBackup 向けに提供しません。 .....	18
	NetBackup での MSDP サーバーの回避 .....	19
	クラウド LSU の統合のサポート .....	19
	クラウドオブジェクトストア保護のためのオブジェクト変更追跡 .....	19
	ブロックストレージアレイの HPE GreenLake でレプリケーションをサポート .....	19
	データセンター向け NetBackup Snapshot Manager でクラウドストレージアレイをサポート .....	20
	PaaS データベースのサポートの拡張機能 .....	20
	NextGen マルウェアスキャンツールのサポート .....	20
	マルウェアスキャン操作に関する Web UI の応答性の更新 .....	20
	感染検出時のマルウェアスキャンの中止 .....	21
	単一プロバイダプラグインでのマルチアカウントのサポート .....	21

マルチストリーム (並列読み取り) のサポートにより強化されたクラウド VM バックアップパフォーマンス .....	21
クラウド VM バックアップのクラウド並列ストリームジョブ階層 .....	22
Cloud Scale のドキュメントの変更、拡張機能、配備に関する更新 .....	22
クラウド KMS (キーマネージメントサービス) のサポート .....	23
外部 CA が発行した証明書のローテーションの構成 .....	23
ネットワークアクセス制御のサポート .....	24
NetBackup のフリーズモード .....	24
YARA スキャンのサポート .....	24
STIG コンプライアンスのサポート .....	24
Kubernetes 作業負荷に対する仮想マシンの選択的リストア .....	24
NetBackup Web UI を使用した Cohesity でのリストアのテープメディア アプレビュー .....	25
NetBackup Web UI での RHV および OLVM 作業負荷の新しいポ リシー形式 .....	25
VMware から Nutanix へのクロス Hypervisor リストア .....	26
PostgreSQL バックアップの pgBackRest のサポート .....	26
Percona XtraBackup ユーティリティのサポート .....	26
Cohesity での SharePoint Recovery のサポート .....	27
JWT 認証を使用した WebSocket サーバークレデンシアルセキュリ ティの強化 .....	27
NetBackup Web UI の新しいレポート拡張機能 .....	27
NetBackup Web UI の Vault 管理の拡張機能 .....	28
ストレージユニットグループの概要 .....	28
クロスドメインバックアップレプリケーションのサポート .....	29
ストレージサーバークレデンシアル .....	29
NetBackup のデフォルトパスの変更 (アプリケーションフォルダとセッ トアップログ) .....	29
AHV バックアップを使用した vTPM 対応 VM の保護のサポート .....	29

## 第 3 章

<b>操作上の注意事項 .....</b>	<b>31</b>
NetBackup 11.1 の操作上の注意事項について .....	31
NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項 .....	32
Windows で NetBackup 11.1 のアップグレードが失敗した場合に以 前のログフォルダ構造に戻す .....	32
ネイティブインストールの要件 .....	32
NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名 を使用する必要がある .....	33
HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて .....	33
NetBackup がインストールされるデフォルトパスの変更 .....	34
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項 .....	34

	NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する .....	34
	Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する .....	35
	NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項 .....	35
	PIT リストア後 [ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される .....	35
	NetBackup 11.1 での AIX BMR SRT (共有リソースツリー) の作成が失敗する .....	36
	Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある .....	36
	Windows 2025 クライアントのリストア時に AWS で NetBackup Bare Metal Restore がハングアップする .....	37
	NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項 .....	37
	NetBackup 11.1 へのアップグレード後の完全バックアップ .....	37
	バックアップホストとしての RHEL メディアサーバーのサポート対象バージョン .....	37
	NetBackup バージョン 11.1 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要 .....	38
	バックアップジョブが応答しなくなり、一時的なステージング場所で大量の領域を消費する。 .....	38
	NetBackup NAS の操作上の注意事項 .....	38
	ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある .....	39
	NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項 .....	39
	CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされる。 .....	39
	NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項 .....	39
	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート .....	40
	特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする .....	40
	FIPS コンプライアンスの操作上の注意事項 .....	41
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について .....	42
	Cohesity Services and Operations Readiness Tools について .....	42
付録 B	NetBackup のインストール要件 .....	44
	NetBackup のインストール要件について .....	44
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新 .....	45

	NetBackup 11.1 のバイナリサイズ .....	46
<b>付録 C</b>	<b>NetBackup の互換性の要件 .....</b>	<b>49</b>
	NetBackup のバージョン間の互換性について .....	49
	NetBackup の互換性リストと情報について .....	50
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて .....	50
<b>付録 D</b>	<b>他のNetBackup マニュアルおよび関連マニュアル</b>	
	.....	52
	NetBackup の関連マニュアルについて .....	52

# NetBackup 11.1 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 11.1 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

## NetBackup 11.1 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

### EEB およびリリース内容について

NetBackup 11.1 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 11.1 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Cohesity Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』にあります。

p.42 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

### NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の

最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

## NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/15143.html](https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html)

## NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

# 新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 11.1 の新機能、変更点、拡張機能](#)

## NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

---

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、[Cohesity](#) によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

---

p.8 の「[NetBackup 11.1 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.50 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

## NetBackup 11.1 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 11.1 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

## 新機能

- 「Cohesity 用語の変更点」
- 「NetBackup 11.1 の RESTful API」
- 「Nutanix AHV のインスタントアクセス VM 作成機能のサポート」
- 「AHV バックアップを使用した vTPM 対応 VM の保護のサポート」
- 「クラウドオブジェクトストア保護のためのオブジェクト変更追跡」
- 「ブロックストレージアレイの HPE GreenLake でレプリケーションをサポート」
- 「データセンター向け NetBackup Snapshot Manager でクラウドストレージアレイをサポート」
- 「PaaS データベースのサポートの拡張機能」
- 「NextGen マルウェアスキャンツールのサポート」
- 「マルウェアスキャン操作に関する Web UI の応答性の更新」
- 「感染検出時のマルウェアスキャンの中止」
- 「単一プロバイダプラグインでのマルチアカウントのサポート」
- 「Cloud Scale のドキュメントの変更、拡張機能、配備に関する更新」
- 「クラウド KMS (キーマネージメントサービス) のサポート」
- 「外部 CA が発行した証明書のローテーションの構成」
- 「ネットワークアクセス制御のサポート」
- 「NetBackup のフリーズモード」
- 「Kubernetes 作業負荷に対する仮想マシンの選択的リストア」
- 「NetBackup Web UI を使用した Cohesity でのリストアのテープメディアプレビュー」
- 「NetBackup Web UI での RHV および OLVM 作業負荷の新しいポリシー形式」
- 「VMware から Nutanix へのクロス Hypervisor リストア」
- 「PostgreSQL バックアップの pgBackRest のサポート」
- 「Percona XtraBackup ユーティリティのサポート」
- 「Cohesity での SharePoint Recovery のサポート」
- 「JWT 認証を使用した WebSocket サーバークレデンシャルセキュリティの強化」
- 「NetBackup Web UI の新しいレポート拡張機能」
- 「NetBackup Web UI の Vault 管理の拡張機能」

- 「ストレージユニットグループの概要」
- 「クロスドメインバックアップレプリケーションのサポート」
- 「ストレージサーバークレデンシャル」

## 安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 11.1 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信(最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

## サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 11.1 のサポートの追加および変更点」
- 「NetBackup 11.1 で認定される NetBackup 11.0.0.1 以前のサポートの追加および変更点」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」
- 「NetBackup Web UI の新機能および拡張機能」

## インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「NetBackup のデフォルトパスの変更 (アプリケーションフォルダとセットアップログ)」

## クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 11.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する」

## その他の通知事項

- p.18 の「Cohesity は、11.1 リリース以降、Java 管理コンソールを NetBackup 向けに提供しません。」を参照してください。

## Cohesity 用語の変更点

Cohesity では最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

**メモ:** Cohesity では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

非推奨の用語	新しい用語
マスター	プライマリ
スレーブ	セカンダリサーバーまたはメディアサーバー
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

## NetBackup 11.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 11.1 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup プライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 11.1 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Cohesity は次回のリリースを待たずに、クラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.13.6 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。

バージョン 2.13.7 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 11.1 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- HPE Alletra Storage MP X10000 - Object Lock (S3)
- COSP (クラウドオブジェクトストア保護) - HPE Alletra Storage MP X10000
- Secsmart HyperProtect Data Lake Storage (S3)
- COSP (クラウドオブジェクトストア保護) Nutanix Objects
- COSP (クラウドオブジェクトストア保護) - PSPACE InfiniStor
- FortKnox for NetBackup AWS (S3) リージョン
  - アジア太平洋 (台北)
  - アジア太平洋 (マレーシア)
  - アジア太平洋 (ニュージーランド)

- アジア太平洋 (タイ)
- Amazon (S3) リージョン:
  - アジア太平洋 (ニュージーランド)

[https://www.veritas.com/content/support/ja\\_JP/downloads/update.UPD971796](https://www.veritas.com/content/support/ja_JP/downloads/update.UPD971796)

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次の技術情報を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

## NetBackup 11.1 の RESTful API

NetBackup 11.1 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、REST (Representational State Transfer) アーキテクチャで構築されています。これらは、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

### API のマニュアル

NetBackup API のマニュアルは、SORT とプライマリサーバーにあります。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

- SORT の場合:  
NetBackup API のマニュアルは、SORT で入手できます。  
[\[HOME\]](#)、[\[ナレッジベース \(KNOWLEDGE BASE\)\]](#)、[\[文書 \(Documents\)\]](#)、[\[製品バージョン \(Product Version\)\] 11.1](#)  
[\[API リファレンス \(API Reference\)\]](#)の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。
- プライマリサーバーの場合:  
API は、プライマリサーバー上の YAML ファイルに格納されています。  
`https://<primary_server>/api-docs/index.html`  
API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、プライマリサーバーと API にアクセスするための適切なセキュリティ権限が必要です。

---

**注意:** Cohesity は、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

---

## NetBackup Web UI の新機能および拡張機能

このリリースでは、NetBackup Web UI には次の新機能と拡張機能が含まれています。

- NetBackup Web UI からストレージサーバーのクレデンシャルを更新できるようになりました。以前、この機能は `tpconfig` コマンドでのみ利用可能でした。
- NetBackup Web UI のデフォルトのテーマがダークモードになりました。
- NetBackup Web UI が更新され、Veritas Alta View が Cohesity Alta View に置き換えられました。
- Web UI が更新され、ポリシーでの RBAC 制御がサポートされます。RBAC 権限は、すべてのポリシー、特定の種類のポリシー、または特定のポリシーに適用できます。
- Web UI に、SAN クライアントのサポートが追加されました。メディアサーバーノードでは、ファイバートランスポートデバイスとファイバートランスポート接続を表示し、ファイバートランスポートサービスを有効または無効にできます。
- Web UI に、属性、スケジュール、クライアントを含むポリシーの概略のサポートが追加されました。

## 将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- `bp.kill_all`
- `bpdown`
- `bpclusterkill`

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

## Nutanix AHV のインスタントアクセス VM 作成機能のサポート

NetBackup 11.1 では、Nutanix AHV のインスタントアクセスを使用したインスタントアクセス VM 作成機能をサポートします。この機能は BYO でのみサポートされます。

詳しくは、『NetBackup for Nutanix AHV 管理者ガイド』を参照してください。

## KVM (カーネルベースの仮想マシン) のサポート

このリリースには、KVM 作業負荷のサポートが含まれています。追加の管理アプリケーション層 (oVirt など) は必要ありません。

## NetBackup 11.1 のサポートの追加および変更点

---

**メモ:** この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

---

NetBackup 11.1 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

### プラットフォーム

- プライマリ、メディア、およびクライアント
  - Red Hat Enterprise Linux 10.0 [x86-64]
- クライアント
  - Red Hat Enterprise Linux 10.0 [POWER10]
  - AlmaLinux 10 [x86-64]
  - Debian 13 [x86-64]
- クラスタ化されたプライマリサーバー
  - Red Hat Enterprise Linux Pacemaker 0.12.0 - Red Hat Enterprise Linux 10.0 [x86-64]

### データベース

- MySQL 9.x - Red Hat Enterprise Linux 10.0 [x86-64]
- MariaDB 11.x - Redhat Enterprise Linux 10.0 [x86-64]

### 仮想化

- VMware ゲストオペレーティングシステム - Red Hat Enterprise Linux 10.0
- Hyper-V ゲストオペレーティングシステム - Red Hat Enterprise Linux 10.0

### NetBackupSnapshotManager

- NetBackup Snapshot Manager - Red Hat Enterprise Linux 10.0

### BMR のサポート

- Oracle Enterprise Linux 9.3 および 9.4

## NetBackup 11.1 で認定される NetBackup 11.0.0.1 以前のサポートの追加および変更点

---

**メモ:** この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、「[NetBackup Compatibility List for all Versions](#)」を参照してください。

---

次の製品とサービスは NetBackup 11.0.0.1 以前のバージョンでサポートされ、NetBackup 11.1 で認定されています。

### プラットフォーム

- プライマリ、メディア、およびクライアント
  - Red Hat Enterprise Linux 9.6 [x86-64]
  - Oracle Linux 9.6 Unbreakable Linux Kernel [x86-64]
  - Oracle Linux 9.6 Red Hat Compatible Kernel [x86-64]
  - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP7 [x86-64]
- クライアント
  - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP7 [POWER9]
  - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP6 [POWER10]
  - AIX 7.3 TL3 [POWER10]
  - Red Hat Enterprise Linux 9.6 [POWER10]
  - AIX 7.2 TL5 [POWER10]

### データベース

- Oracle Database 23ai - Windows Server 2025 [x86-64]
- PostgreSQL 17.x - SUSE Linux Enterprise Server 15.x [x86-64]
- SharePoint SE - MS SQL 2022 - Windows Server 2025 [x86-64]

### NDMP

- Dell EMC PowerStore OS 4.1 NDMP

### OpenStorage

- Dell Data Domain OST プラグイン 8.4

### 仮想化

- Nutanix AOS 7.3 - Windows Server (バックアップホスト)
- Nutanix AOS 7.3 - Red Hat Enterprise Linux (バックアップホスト)

#### CloudStorage

- IDrive e2 Cloud storage
- HPE Alletra Storage MP X10000 (プライベートクラウド) v1.2.x Object Lock
- Secsmart HyperProtect Data Lake Storage (プライベートクラウド)

#### CloudObjectStoreProtection

- HPE Alletra Storage MP X10000 (プライベートクラウド) v1.2.x

#### クラスタ化されたプライマリサーバー

- InfoScale 9.0 - Windows Server 2019
- InfoScale 9.0 - Windows Server 2025
- InfoScale 9.0.1 - Red Hat Enterprise Linux 9.6
- InfoScale 9.0.2 - Red Hat Enterprise Linux 8.10 [x86\_64]

#### Kubernetes

- Kubernetes - Vanilla 1.33

#### SAPHANA

- SAP HANA 2.0 SPS 08 - Red Hat Enterprise Linux 9.6 [POWER10]
- SAP HANA 2.0 SPS 08 - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP6 [POWER10]
- SAP HANA 2.0 SP 08 - Red Hat Enterprise Linux 9.6 [x86\_64]

#### テープライブラリ

- Spectra Logic Spectra Cube Tape library (IBM LTO-8 テープドライブ搭載)

#### テープドライブ

- IBM LTO-10 テープドライブ

## Cohesity は、11.1 リリース以降、Java 管理コンソールを NetBackup 向けに提供しません。

### ライフサイクル終了 (EOL) に関する声明

Cohesity は、11.1 リリース以降、Java 管理コンソールの提供を停止しています。この変更は、すべての構成および管理タスクが Web UI に移動されるため、ユーザーエクスペリエンスを合理化することを目的としています。以降のリリースでは、プライマリサーバーとメディアサーバーの製品とインストールメディアに Java 管理コンソールが含まれません。Java 管理コンソールの更新やサポートは今後行われません。

この EOL に関する声明は、BAR (バックアップ、アーカイブ、およびリストア) Java UI には適用されません。BAR UI は引き続き利用可能で、サポートされます。

Cohesity は、以前のすべてのリリースにおける Java 管理コンソールを引き続きサポートし、以前の NetBackup バージョンのサポート終了に関する公開済みガイドラインに従います。

## NetBackup での MSDP サーバーの退避

NetBackup 11.1 では、MSDP サーバーの退避が導入されています。MSDP サーバーの退避は、1 つの MSDP サーバーから他の複数の MSDP サーバーにイメージを移行するプロセスです。この機能では、MVG (MSDP ボリュームグループ) を使用して MSDP サーバーの退避を管理します。移行中もシステムは完全に動作し続け、NetBackup の構成に追加の変更は必要ありません。

詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

## クラウド LSU の統合のサポート

NetBackup バージョン 11.1 以降、クラウド LSU をある MSDP メディアサーバーから別の MSDP メディアサーバーに統合できるようになりました。この拡張機能により、クラウドストレージ管理が簡略化され、メディアサーバー間でのより柔軟なリソース割り当てが可能になります。

詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

## クラウドオブジェクトストア保護のためのオブジェクト変更追跡

NetBackup には、オブジェクトの変更追跡が導入されています。これは、ネイティブオブジェクトストアメカニズムを使用して、変更されたオブジェクトを識別する機能です。このようなメカニズムの 1 つに、保護対象バケットでの作成、更新、削除などの操作を記録する S3 バケットログがあります。

NetBackup は、これらのログを分析して変更を検出し、バケット全体をスキャンせずに効率的な増分バックアップを実行します。この方法により、バックアップのパフォーマンスが大幅に向上します。

NetBackup 11.1 は、S3 のバケットログ機能を使用する IBM Storage Ceph でこのメカニズムをサポートします。

詳しくは、『NetBackup クラウドオブジェクトストア管理者ガイド』を参照してください。

## ブロックストレージレイの HPE GreenLake でレプリケーションをサポート

NetBackup 11.1 では、SYNC レプリケーション構成を使用したブロックストレージレイの HPE GreenLake におけるレプリケーションのサポートが導入されました。

詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。

## データセンター向け NetBackup Snapshot Manager でクラウドストレージレイをサポート

NetBackupバージョン 11.1 以降では、データセンターの配備に同じ NetBackup Snapshot Manager を使用して、オンプレミス NAS 資産と VM やデータベースなどのクラウド資産の両方を保護できます。オンプレミスの配備を使用してクラウド資産を保護するか、クラウドベースの配備を使用してオンプレミス資産を保護できます。

詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。

## PaaS データベースのサポートの拡張機能

### 増分バックアップのサポート

次の PaaS データベースの増分バックアップサポートが追加されました。

- AWS RDS PostgreSQL
- AWS Aurora PostgreSQL
- AWS RDS SQL Server
- AWS DynamoDB
- GCP PostgreSQL

### Azure の作業負荷の改善

- Azure SQL と Azure 管理対象インスタンスの増分バックアップの一時的なステージングデータベース要件を削除しました。
- Azure SQL データベースのエラスティックプールのサポートが追加されました。

詳しくは、『NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド』を参照してください。

## NextGen マルウェアスキャナツールのサポート

NetBackup 11.1 では、NetBackup NextGen マルウェアスキャナツールのサポートを提供します。詳しくは『NetBackup™ セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## マルウェアスキャン操作に関する Web UI の応答性の更新

この NetBackup 11.1 のリリースでは、Web UI が改善され、アクティビティモニターのマルウェアスキャンジョブに対して応答性の向上と詳細な更新が行われました。

以前、ユーザーから、スキャンの進行状況に関する可視性の制限、状態更新の遅延、アクティビティモニターとマルウェア検出画面の不一致に関する報告がありました。詳しくは『NetBackup™ セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## 感染検出時のマルウェアスキャンの中止

NetBackup 11.1 では、マルウェアスキャンで感染を検出すると、マルウェアスキャンをすぐに中止できるようになりました。スキャン状態が[感染 - マルウェアスキャン中止 (Infected - Malware scan aborted)]に更新され、ログ、通知、監査イベントが表示されます。ユーザーは、感染ファイルの表示、感染ファイルのエクスポート、イメージの再スキャンを実行できます。これにより、脅威に関する可視性が向上し、リカバリ中に時間を節約できます。詳しくは『NetBackup™ セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## 単一プロバイダプラグインでのマルチアカウントのサポート

NetBackup 11.1 以降、複数のクロスアカウントにまたがる資産は、ソースアカウントから作成された単一のプロバイダ構成を使用して保護できます。これにより、複数のエージェントサービス (NetBackup Snapshot Manager 配備内の AWS アカウントごとに 1 つずつ) が不要になり、必要ないリソース消費が削減され、管理が簡略化されます。この機能を使うには、NetBackup Snapshot Manager と NetBackup プライマリサーバーの両方をバージョン 11.1 にアップグレードする必要があります。

---

**メモ:** 別のクロスアカウント構成を使用してすでに保護されている既存のクロスアカウント設定の構成は変更できません。

---

詳しくは、『NetBackup™ Snapshot Manager インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

## マルチストリーム (並列読み取り) のサポートにより強化されたクラウド VM バックアップパフォーマンス

NetBackup 11.1 では、クラウド VM バックアップに対するマルチストリームまたは並列読み取りのサポートが導入され、大規模な仮想マシンのパフォーマンスが大幅に向上します。この拡張機能により、各仮想ディスクは個別の並列ジョブを介してバックアップされ、複数のディスクを同時に読み取りおよび転送できるようになります。すべてのディスクレベルのジョブは単一の親ジョブの下で管理され、独立して実行されるため、バックアップが迅速に完了し、耐性が向上します。1 つのディスクジョブが失敗した場合、同じ VM に関する他の実行中ジョブに影響を与えずに個別に再試行できます。

NetBackup 11.1 では、マルチストリームのクラウド VM 保護がデフォルトで有効になっています。NetBackup プライマリサーバーをアップグレードし、クラウド VM 保護を以前に構成していた場合、互換性を確保するためにメディアサーバーと NetBackup Snapshot Manager もアップグレードする必要があります。

詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Cloud のインストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

## クラウド VM バックアップのクラウド並列ストリームジョブ階層

この NetBackup 11.1 のリリースでは、クラウド VM バックアップの効率と信頼性を向上するために、新しい並列ストリームジョブ階層が導入されました。並列読み取りを有効にすると、各 VM ディスクは独自のストリームを介してバックアップされ、統合アンカーストリームによってすべてのディスクデータの最終的な合成が管理されます。この拡張機能により、バックアップパフォーマンスの高速化、ジョブの可視性の向上、マルチディスククラウド VM の再試行処理の効率化が実現します。

NetBackup 11.1 では、マルチストリームのクラウド VM 保護がデフォルトで有効になっています。NetBackup プライマリサーバーをアップグレードし、クラウド VM 保護を以前に構成していた場合、互換性を確保するためにメディアサーバーと NetBackup Snapshot Manager もアップグレードする必要があります。

詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Cloud のインストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

## Cloud Scale のドキュメントの変更、拡張機能、配備に関する更新

この NetBackup 11.1 のリリースでは、Cloud Scale Technology に、ドキュメント名の変更、拡張機能、配備の更新に関連する変更が含まれています。

詳しくは、『Kubernetes クラスタ向け Cohesity Cloud Scale Technology 手動配備ガイド』を参照してください。

### マニュアルの変更

このリリースでは、『Kubernetes クラスタ向け NetBackup™ 配備ガイド』の名称が『Kubernetes クラスタ向け Cohesity Cloud Scale Technology 手動配備ガイド』に変更されました。

### Cloud Scale の配備とアップグレードの簡略化

このリリースでは、新しい kubect1 プラグインを使用して、Cloud Scale の配備とアップグレードが簡略化されており、配備手順が自動化されて最小限になり、必要なアップグレード処理のみが実行されます。さらに、複数の Helm Chart がより小さいセットに統合され、Helm ベースの配備が可能になり、全体的な効率と保守性が向上しました。

### NetBackup Cloud Scale の StatefulSet としての Database Manager

Cloud Scale Technology では、BPDBM (NetBackup Database Manager) が、NetBackup オペレータによって配備された StatefulSet として実装されます。カタログ管理や、ポリシーデータベース、スケジュールデータベース、イメージデータベース、メディ

データベースへのインターフェースなどの BPDBM 機能は、プライマリサーバーから分離され、個別の Kubernetes サービスで実行されます。

BPDBM サービスは Web サービスを使用し、1 つの BPDBM ポッドで構成され、他の NetBackup コンポーネントからのすべての要求がこのポッドにルーティングされます。

## Cloud Scale のログ収集パフォーマンスの向上

Cloud Scale ログ収集システムは、圧縮を導入してネットワークトラフィックを減らし、並列ストリーミングを増やして全体的なスループットを向上させることで最適化され、パフォーマンスが向上しました。

## クラウド KMS (キーマネージメントサービス) のサポート

NetBackup KMS と外部 KMS とともに、NetBackup は格納データの暗号化キーを管理するクラウド KMS をサポートするようになりました。

次のクラウドプロバイダは、NetBackup のクラウド KMS 構成でサポートされます。

- AWS (アマゾンウェブサービス)
- GCP (Google Cloud Platform)
- Microsoft Azure

MSDP ストレージサーバーに格納されているバックアップイメージは、それぞれのクラウド KMS サーバーに保持されているキーを使用して暗号化できます。NetBackup は、NetBackup クレデンシャル管理システムで構成されたクレデンシャルを使用してクラウド KMS サーバーで認証を行います。

必要に応じて、HTTP プロキシサーバーまたは HTTPS プロキシサーバーを構成して、クラウド KMS と通信できます。プロキシサーバーのクレデンシャルは、NetBackup Web UI を使用して、NetBackup クレデンシャル管理システムを介して管理されます。

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## 外部 CA が発行した証明書のローテーションの構成

ECA (外部 CA) が発行した証明書のローテーションは、NetBackup Web UI と API を使用して構成できるようになりました。セキュリティ管理者または必要な RBAC 権限を持っているユーザーは、BYO、Flex (WORM コンテナを含む)、NetBackup Appliance、NetBackup Snapshot Manager ホスト、クラスタ化されたプライマリサーバーの設定用に外部 CA が発行した証明書のローテーションを構成できます。

ECA が発行した証明書のローテーションは、Cloud Scale と NetBackup Flex Scale ではサポートされません。

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## ネットワークアクセス制御のサポート

ネットワークアクセス制御オプションは、IP アドレスに基づいて NetBackup Web API へのアクセスを制限する追加のセキュリティ層を提供します。このオプションにより、信頼できるネットワークのみが NetBackup Web API と通信できるようにすることができます。NetBackup Web UI または API でこのオプションを有効にすると、Web API にアクセスできる、またはできない IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を指定できます。

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## NetBackup のフリーズモード

特定のシナリオでは、フリーズモードを有効にして、セキュリティ上の理由からユーザーが NetBackup を変更するのを防ぐことができます。フリーズモードでは、構成されているフリーズモードオプションに応じて、NetBackup の構成を変更したり、特定の機能を使用したりできません。

組織でフリーズモードを有効にする必要がある場合は、事前にシナリオ (マルウェア攻撃など) を明確にすることをお勧めします。

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## YARA スキャンのサポート

NetBackup では、マルウェア攻撃に対する YARA スキャンをサポートしました。

YARA は「Yet Another Ridiculous Acronym (もう 1 つのおかしな頭字語)」の頭字語です。

YARA スキャナは、YARA ルールを使用して、ファイルまたはメモリ内のマルウェアやその他の悪意のあるアーティファクトを見つけて分類するツールです。YARA を使用すると、テキストまたはバイナリパターンを定義して、特定のマルウェアファミリーまたは特定の種類の脅威を識別するルールを作成できます。

詳しくは『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

## STIG コンプライアンスのサポート

11.1 以降、NetBackup ではパッケージファイルの RPM 検証による STIG (セキュリティ技術導入ガイド) コンプライアンスをサポートします。

## Kubernetes 作業負荷に対する仮想マシンの選択的リストア

Cohesity では、Kubernetes 作業負荷内の VirtualMachine リソースの選択的リストアをサポートするようになりました。これにより、リカバリ操作中の制御と正確さが向上します。

以前は、VirtualMachine リソースに該当するものをリストアすると、実際のリカバリの必要性に関係なく、選択した名前空間内のすべてのバックアップ済み仮想マシンがリストアされました。この動作は、大規模な環境や部分的なリカバリが必要なシナリオで問題となっていました。

この更新により、管理者はスナップショットまたはバックアップからリストアする特定の仮想マシンを選択できるようになり、リカバリワークフローを合理化し、不要なリソースリストアを最小限に抑えることができるようになりました。

処理などについて詳しくは、『NetBackup for Kubernetes 管理者ガイド』で「Kubernetes 資産のリカバリ」の「スナップショットまたはバックアップからの仮想マシンのリストア」のセクションを参照してください。

## NetBackup Web UI を使用した Cohesity でのリストアのテープメディアプレビュー

Cohesity では、リストア操作に必要なテープのリストを表示できるプレビューオプションをサポートしました。

NetBackup Web UI で、[リカバリ (Recovery)] タブが拡張され、新しい [メディアのプレビュー (Preview Media)] ボタンが追加されました。この機能は、ユーザーがリストアを開始する前に必要なテープメディアを正確に識別して、計画を改善し、リストア時間を短縮するのに役立ちます。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』で「バックアップの構成」、「リストアの実行」、「NBU Web UI からのリストアの実行」、「テープメディアのファイルとディレクトリのリストア」のセクションを参照してください。

## NetBackup Web UI での RHV および OLVM 作業負荷の新しいポリシー形式

NetBackup Web UI では、RHV (Red Hat Virtualization) と OLVM (Oracle Linux Virtualization Manager) の作業負荷のバックアップとリカバリを管理するための専用のポリシー形式をサポートしました。

この拡張機能により、ポリシーの作成、VM の選択、ホストの割り当て、リカバリワークフローが合理化されます。

主な機能は次のとおりです。

- ポリシーの作成
- VM の選択
- ホストの割り当て
- ポリシーの処理
- アクティビティモニター

- リカバリワークフロー

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

## VMware から Nutanix へのクロス Hypervisor リストア

NetBackup では、Nutanix AHV への VMware VM (仮想マシン) の直接リストアをサポートしました。これにより、Nutanix 環境への VMware バックアップのシームレスな移行が可能になります。

手順、前提条件、サポート対象の構成について詳しくは、『NetBackup VMware 管理者ガイド』で「VM のリカバリ」、「VMware から Nutanix へのクロス Hypervisor リストア」のセクションを参照してください。

## PostgreSQL バックアップの pgBackRest のサポート

NetBackup では、従来の pg\_basebackup ユーティリティと比較して強化された機能を提供するオープンソースツールである pgBackRest ユーティリティを使用したバックアップをサポートしました。

主な利点:

- 圧縮、暗号化、並列処理などの拡張機能を使用して物理的なバックアップを作成します。
- 既存のバックアップを使用したストリームレプリケーションの初回データベースコピーをサポートします。
- 差分リストアオプションを使用してスタンバイ再構築を有効にします。

手順と構成について詳しくは、『NetBackup for PostgreSQL 管理者ガイド』で「PostgreSQL インスタンスとデータベースの保護」、「PostgreSQL インスタンスとデータベースの保護」のセクションを参照してください。

## Percona XtraBackup ユーティリティのサポート

NetBackup では、Percona XtraBackup ユーティリティを使用したバックアップをサポートしました。XtraBackup は、InnoDB データベースおよび XtraDB データベースを含む MySQL ベースサーバー用のオープンソースのホットバックアップツールです。これにより、非ブロッキングバックアップが可能になり、メンテナンス期間中もデータベースが完全に利用可能な状態に維持されます。

この拡張機能は、パフォーマンスに影響を与えることなく、高スループットの本番環境とトランザクションボリュームの少ないサーバーの両方をサポートするように設計されています。

手順について詳しくは、『NetBackup for MySQL 管理者ガイド』の「MySQL インスタンスとデータベースの保護」を参照してください。

## Cohesity での SharePoint Recovery のサポート

NetBackup では、Microsoft SharePoint (オンプレミス) 環境のリカバリがサポートされ、個別リストアとデータベースレベルの両方のリストア操作が可能になりました。

主な機能:

- 個別リカバリ
- データベースレベルのリカバリ
- 柔軟なリストアオプション

詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』で「NetBackup Web UI を使用したリカバリの実行」のセクションを参照してください。

## JWT 認証を使用した WebSocket サーバークレデンシアルセキュリティの強化

リアルタイム通信のセキュリティを強化するため、NetBackup では WebSocket サーバーでクライアントクレデンシアルを設定するための JWT (JSON Web Token) 認証をサポートしました。

この更新は、権限のないアクセス、セッションハイジャック、データ漏えいなどのリスクを軽減するのに役立ちます。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』で「ホストの構成」、「作業負荷および NetBackup がアクセスするシステムのクレデンシアルの管理」、「WebSocket サーバーのクレデンシアルの追加」のセクションを参照してください。

## NetBackup Web UI の新しいレポート拡張機能

NetBackup Web UI では、テープ、ディスク、Vault 操作に関するレポート機能が拡張されました。

これらの拡張機能では、次に関する詳細なレポートが導入されています。

- [バックアップ状態 (Backup Status)]: 完了したバックアップ、失敗したバックアップ、進行中のバックアップの概要。
- [クライアントバックアップの概略 (Client Backup Summaries)]: クライアントごとのバックアップアクティビティと成功率。
- [メディア上のイメージ (Images on Media)]: 複数のメディア形式にまたがって格納されるバックアップイメージのインベントリ。

---

**メモ:** [メディア上のイメージ (Images on Media)] レポートの [パス (Path)] パラメータは、想定どおりに機能しません。ユーザーはレポート生成時にパラメータを指定できますが、レポートの出力には反映されません。レポートは正常に生成されますが、指定したパスはフィルタ処理で考慮されません。

---

- [メディアのログ (Media Logs)]: メディアの使用状況とライフサイクルイベントの履歴ログ。

詳細な手順とレポートの操作については、**NetBackup Web UI 管理者ガイド**で[検出とレポート (Detection and Reporting)]の[レポート (Reports)]を参照してください。

## NetBackup Web UI の Vault 管理の拡張機能

NetBackup Web UI では、包括的な Vault 管理機能をサポートしました。これにより、コマンドライン操作が不要になり、テープベースのバックアップワークフローが合理化されます。

主な機能:

- Vault の作成と構成: Web UI から Vault を直接定義および管理します。
- プロファイルの管理: 自動テープ処理用の Vault プロファイルの作成、編集、割り当てを行います。
- ロボットテープライブラリの統合: 直感的なインターフェースを使用して、ロボットと関連メディアリソースを管理します。
- レポートと監視: Vault 関連のレポートと状態ダッシュボードにアクセスでき、可視性が向上します。

詳しくは、『NetBackup Web UI Vault 管理者ガイド』を参照してください。

## ストレージユニットグループの概要

NetBackup では、複数のストレージユニットを 1 つのストレージユニットグループに編成できるため、ポリシー管理が簡略化され、バックアップの柔軟性が向上します。個々のストレージユニットをバックアップポリシーに割り当てる代わりに、論理コンテナとして機能するストレージユニットグループを参照できます。

また、グループ内のストレージユニットの実行順序を定義して、バックアップジョブの分散と優先順位付けの方法を正確に制御できます。

構成手順について詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』で「ストレージの構成」、「ストレージユニットグループ」のセクションを参照してください。

## クロスドメインバックアップレプリケーションのサポート

NetBackup では、異なるドメインにおける NetBackup ストレージデバイスへのレプリケーション専用となるバックアップイメージのセカンダリコピーの作成をサポートしました。

この拡張機能により、複数の環境にわたるより柔軟で耐性のあるデータ保護が実現します。ストレージサーバーでレプリケーションターゲットを構成し、指定したバックアップのレプリケートコピーの作成を開始できます。

手順と構成のガイダンスについては、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』で「バックアップの構成」、「バックアップの管理」、「ターゲット NetBackup ドメインへのバックアップイメージのコピーのレプリケート」を参照してください。

## ストレージサーバークレデンシャル

NetBackup では、ストレージサーバーのクレデンシャルの直接編集をサポートしました。接続されているリモートデバイスのクレデンシャルが変更された場合は、ストレージサーバー構成内でそれらを更新して、中断のない通信を確保できます。

手順について詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』で「ディスクストレージの構成」、「ストレージサーバーのクレデンシャルの編集」のセクションを参照してください。

## NetBackup のデフォルトパスの変更 (アプリケーションフォルダとセットアップログ)

NetBackup のデフォルトのアプリケーションフォルダパスは C:\Program Files\Veritas から C:\Program Files\Cohesity NetBackup に変更され、引き続きカスタマイズできます。アップグレードは影響を受けません。NetBackup の既存のアプリケーションフォルダはアップグレード中に保持されます。

インストールとアップグレードの際に使用する、設定ログのパスが

`%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallLogs` から

`%ALLUSERSPROFILE%\Cohesity\NetBackup\InstallLogs` に変更されました。

## AHV バックアップを使用した vTPM 対応 VM の保護のサポート

TPM (Trusted Platform Module) は、暗号化やハードウェア (およびソフトウェア) の整合性保護などのセキュリティサービスの暗号キーを管理するために使用されます。AHV vTPM (Virtual Trusted Platform Module) は、仮想デバイスとして機能する TPM 2.0 仕様のソフトウェアベースのエミュレーションです。

Nutanix では次をサポートします。

- AOS 6.8 での vTPM 対応 VM のバックアップ。
- Prism Central API を使用したバックアップとリストア。

- マシンタイプ - Q35 のみの vTPM (Virtual Trusted Platform Module)。

vTPM の情報は、Prism Central Get API を介して取得されます。

# 操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 11.1 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup NAS の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [FIPS コンプライアンスの操作上の注意事項](#)

## NetBackup 11.1 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたは Cohesity のサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。NetBackupCohesity

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

## NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 11.1 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### Windows で NetBackup 11.1 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 11.1 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』で mklogdir コマンドの説明を参照してください。

### ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf  
rpm -U --noscripts VRTSnbpck.rpm  
rpm -U VRTSspbx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

## NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 ( \_ ) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.000125019](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019)

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。

## HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett-Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall や swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup はグローバルビューへのインストールのみをサポートします。HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが失敗します。

## NetBackup がインストールされるデフォルトパスの変更

NetBackup 11.1 以降、NetBackup がインストールされるデフォルトパスは次のとおりです。

```
C:\Program Files\Cohesity NetBackup\NetBackup
```

NetBackup 11.0.0.1 以前のバージョンのデフォルトインストールパスは次のとおりです。

```
C:\Program Files\Veritas
```

クラスタでは、すべてのクラスタノードのインストールパスが同じであることを確認する必要があります。NetBackup 11.0.0.1 以前から NetBackup 11.1 にアップグレードする場合は、古いクラスタノードのデフォルトインストールパスを確認し、追加する新しいノードに同じパスを使用する必要があります。

たとえば、古いクラスタノードにデフォルトインストールパスがある場合は、アップグレード後に新しいノードのインストールパスとして C:\Program Files\Veritas を使用する必要があります。

## NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 11.1 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースについて詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Cohesity のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.50 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

## NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレー

ドして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

## Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

[http://bugs.sun.com/bugdatabase/view\\_bug.do?bug\\_id=6901233](http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233)

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

## NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 11.1 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### PIT リストア後 [ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される

指定した時点 (PIT) のリストア操作 (完全ファイルシステムリストアまたは BMR リストアのいずれかが含まれる場合がある) が実行された後、エラーメッセージ [ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] が表示されます。

このシナリオでは、root または管理者アカウントとして SERVICE\_USER が構成されている場合に完全バックアップが実行されます。このアカウントは、root または管理者の所有権を持つ NetBackup のインストール済みバイナリのバックアップを取得します。リストアの前に、root または管理者以外のアカウントで SERVICE\_USER が構成され、サービスユーザーが bp.conf の一部としてバックアップされる増分バックアップが取得されます。増分バックアップによる PIT リストア操作では、SERVICE\_USER エントリがリストアされます。ただし、バイナリは root アカウントの所有権でリストアされます。

回避方法:

サービスユーザーを変更した後、ファイルシステムの MS-Windows¥Standard Policy が BMR ポリシー構成かにかかわらず、完全バックアップを作成する必要があります。

## NetBackup 11.1 での AIX BMR SRT (共有リソースツリー) の作成が失敗する

SRT (共有リソースツリー) の作成中に、コマンドラインコンソールに次のエラーメッセージが表示されます。

```
lslpp: Fileset libc++.rte not installed.
```

```
ERROR: Could not resolve major version level from [].
```

```
ERROR: Detected an attempt to install incorrect platform and/or  
operating system and version client binaries on  
falcnal2c3.abcus.abc.com.
```

```
Required AIX OS libc++.rte runtime is not present.
```

```
File /tmp/install_trace.xxxxxxxx contains a trace of this  
install. That file can be deleted after you are sure the  
install was successful.
```

```
Do you want to retry install of Veritas NetBackup Client? (y/n) [y]  
:
```

AIX BMR SRT の作成中に NetBackup 11.1 クライアントをインストールするときは、SRT 内に `libc++` ランタイムバージョン 16.1.0.7 以降が必要です。`libc++` ランタイムバージョンが、作成時の AIX BMR SRT に存在しない場合、NetBackup 11.1 クライアントのインストールが失敗し、これにより SRT 作成エラーが発生します。

回避方法:

回避策について詳しくは、この技術情報の記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100060647](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100060647)

## Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある

Linux クライアントで BMR (Bare Metal Restore) のリストア操作を実行した後、NetBackup サービスが自動的に起動しないことがあります。

BMR リストア操作後に NetBackup サービスがしばらく実行され、BMR のリストア後のスクリプトが正常に完了する場合があります。しかし、その後で NetBackup サービスが停止することがあります。

この問題は、サービスユーザーが、NetBackup Linux クライアントで定義されている `root` ユーザーと異なる場合にのみ発生します。

回避方法:

Linux クライアントで NetBackup サービスを手動で起動します。サービスを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

## Windows 2025 クライアントのリストア時に AWS で NetBackup Bare Metal Restore がハングアップする

AWS では、Windows 2025 はデフォルトで NVMe ディスクを使用します。Bare Metal Restore は NVMe ディスクをサポートしていません。

回避方法:

この問題の回避方法はありません。

## NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項

この項では、バージョン 11.1 の NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### NetBackup 11.1 へのアップグレード後の完全バックアップ

Amazon S3 では、一部の API と地域における所有者オブジェクトの表示名パラメータのサポートが廃止されています。この変更は NetBackup によるバックアップの識別方法に影響する場合があります。表示名パラメータが以前のバックアップから欠けている場合、NetBackup はバックアップを増分バックアップではなく新しいバックアップとして扱います。

回避方法:

回避方法はありません。アップグレード後、NetBackup は最初に完全バックアップを実行します。後続のバックアップは、ポリシーで構成されている場合、増分バックアップです。

次の点に注意してください。

- 以前のバージョンの NetBackup からアップグレードする場合、この動作を考慮します。
- アップグレード後の潜在的な完全バックアップに対応するために、バックアップスケジュールとストレージ容量を確認します。

## バックアップホストとしての RHEL メディアサーバーのサポート対象バージョン

NetBackup 11.1 のクラウドオブジェクトストア作業負荷のバックアップホストとしてサポートされている RHEL メディアサーバーのバージョンは、RHEL 9.5 以前です。

## NetBackup バージョン 11.1 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要

NetBackup バージョン 11.1 があるコンピュータから、10.2 より前のバージョンの NetBackup があるターゲットコンピュータに対し、AIR (自動イメージレプリケーション) を実行することはできません。

回避方法:

なし。ターゲットコンピュータを NetBackup バージョン 10.2 以降にアップグレードします。

## バックアップジョブが応答しなくなり、一時的なステージング場所で大量の領域を消費する。

NetBackup クラウドオブジェクトストアのデータ保護機能では、ListObjects S3 API を使用してオブジェクトのリストを反復し、パケット内のオブジェクトをさらに読み取ってバックアップします。ListObjects S3 API は、キー名と NextContinuationToken に基づいて、1 つの要求につき最大 1,000 個のオブジェクトを辞書式順序で返します。この NextContinuationToken はページ分割に使用されます。たとえば、1 回の ListObjects S3 API 呼び出しで、1,000 個のオブジェクトの次のセットを取得し、新しい NextContinuationToken を使用して続くページを取得します。

Hitachi などの特定のクラウドオブジェクトストアプロバイダでは、オブジェクト名に特定の特殊文字が含まれていると NextContinuationToken が正しく動作せず、バックアップパフォーマンスが妨げられる可能性があります。

この動作により、一時的なステージング領域で NetBackup が使用する cos\_sqlite データベースが中断されます。このデータベースには、進行中のバックアップジョブのオブジェクトリストが格納されます。この中断により、cos\_sqlite データベースのサイズが大幅に増加し、一時的なステージング領域のディスク領域がいっぱいになります。これにより、NetBackup ジョブに時間がかかり、最終的に失敗します。

回避方法:

1. 各バッチの適切な値を返すために、ListObjects S3 API 呼び出しで NextContinuationToken を再構成します。
2. 既存のバックアップジョブを取り消し、バックアップを再実行します。

## NetBackup NAS の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Manager および NDMP V4 スナップショット拡張機能を使用して、クライアントデータのスナップショットを NAS ホスト上に作成できます。NAS スナップショットは、ある特定の時点のディスクイメージです。ディスク上のスナップショットは、任意の期間保持できます。NetBackup のインスタントリカバリ機能を使用すると、ディスクから効率的にデータをリストアできます。多くの場合、NetBackup では、NAS-Data-Protection

ポリシーと NDMP ポリシーを使用して、NAS のスナップショットベースのデータ保護を実行できます。このトピックでは、NetBackup 11.1 の NetBackup NAS に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

## NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項

このトピックでは、バージョン 11.1 の NetBackup クラウド作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされる。

OCI プロバイダの KMS サービスが停止している場合、CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされます。KMS サービスがリストアされると、プラグインレベルの検出が正常に完了すると削除済みの状態は解除され、資産または VM がバックアップできるようになります。これ以外の操作は必要ありません。

回避方法:

OCI プロバイダ側の KMS サービスが実行中であることを確認します。

## NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 11.1 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- **Oracle:**  
 データファイルパス、表領域名、TNS パス
- **DB2:**  
 データファイルパス、表領域名
- **SAP:**  
 英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- **Exchange:**  
 メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- **SharePoint:**  
 サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- **Lotus Notes:**  
 電子メールデータ (.nsf ファイル)
- **Enterprise Vault (EV) エージェント:**  
 ボルトストア、パーティション、データ
- **VMware:**  
 ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

## 特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名

- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名
- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 名

## FIPS コンプライアンスの操作上の注意事項

MSCS クラスタを使用する NetBackup のクラスタ化されたプライマリサーバーで FIPS (連邦情報処理標準) オプションを有効にすると、NetBackup 認可サービスが起動に失敗し、NetBackup サーバーの役割がオフラインになります。

### 回避方法

この問題を回避するには、次のいずれかを実行します。

- MSCS 管理サービスとして NetBackup 認可サービスを Cluster Manager から削除します。
- NetBackup 認可サービスを削除します。次のコマンドを実行します。
  - `Install_Path¥NetBackup¥bin¥bpclusterutil -disableSvc nbazd`
  - `Install_Path¥NetBackup¥bin¥bpclusterutil -deleteSvc nbazd`

---

メモ: NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効になっている場合、FIPS モードは有効にできず、サポートされません。

---

# NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)

## Cohesity Services and Operations Readiness Tools について

Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト  
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor  
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート  
このツールを使うと、システムに関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup** のプラットフォームと機能の今後の予定  
このツールを使うと、新しい機能や改善された機能に置き換えられることが予想される項目を確認できます。さらに、置き換わることなく廃止されることが予想される項目に関する情報も入手できます。これらの項目のいくつかには **NetBackup** の特定の機能、サードパーティ製品の統合、その他の製品の統合、アプリケーション、データベースおよび **OS** のプラットフォームが含まれます。

**SORT** ツールのヘルプが利用可能です。**SORT** ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

# NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 11.1 のバイナリサイズ](#)

## NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup アップグレードガイド』に記載されています。

p.32 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- NetBackup 11.1 にアップグレードする前に、NetBackup リレーショナルデータベースの 2 倍のサイズの空きディスク領域があることを確認します。つまり、プライマリサーバーのデフォルトインストールに対して、`/usr/openv/db/data (UNIX)` または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data (Windows)` のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空

き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

---

**メモ:** この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

---

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Cohesity のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。  
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- Cohesity は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、パイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

## NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リスト

で特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Cohesity は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 11.1 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、[Cohesity SORT \(Services and Operational Readiness Tools\) Web サイト](#)および [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)で確認できます。互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。

p.50 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.42 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

## NetBackup 11.1 のバイナリサイズ

次の表には、NetBackup 11.1 プライマリサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表に一覧表示されているサイズの場合、1 MB は 1,024 KB に相当します。

---

**メモ:** 表には、サポートされているオペレーティングシステムのみが表示されています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、[Services and Operations Readiness Tools \(SORT\) Web サイト](#)または [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)を参照してください。

---

表 B-1 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64ビットのサーバー	注意事項
AIX	64ビットのクライアント	1499 MB	サポート終了	
Alma Linux		2095 MB		
Amazon Linux		2095 MB		
BC-Linux		2095 MB		

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64ビットのサーバー	注意事項
Canonical Ubuntu	x86-64	2095 MB		
CentOS	x86-64	2095 MB	7493 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64	2095 MB		
Kylin Linux Advanced Server 10.0		2095 MB		
NeoKylin Linux Advanced Server		2095 MB		
Oracle Linux	x86-64	2095 MB	7493 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER 8/9 クライアント	504 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64	2095 MB	7493 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture	964 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Rocky Linux クライアント		2095 MB		
Solaris	SPARC	1084 MB	サポート終了	
Solaris	x86-64	1042 MB	サポート終了	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER 8/9 クライアント	504 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64	1490 MB	6726 MB	

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture	483 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64	1193 MB	4800 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

# NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

## NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

NetBackup ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序を **NetBackup Snapshot Manager** コンピュータ、プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようになります。たとえば、**11.0 NetBackup Snapshot Manager > 10.2 プライマリサーバー > 10.0 メディアサーバー > 9.1.0.1 クライアント** というシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 11.0 リリースは 11.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 10.2 リリースは NetBackup 10.2.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。10.2 プライマリサーバーは 10.2.0.1 メディアサーバーをサポートします。サポートされない例は、10.2.0.1 プライマリサーバーと 11.0 メディアサーバーの組み合わせです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディ

アサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Cohesity SORT Web サイト](#)を参照してください。

[EOSL](#) 情報をオンラインで確認します。

## NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Cohesity Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.42 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

### NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Cohesity はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようにさまざまな互換性リストを提供しています。

[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)

---

**メモ:** 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

---

## NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Cohesity は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Cohesity 社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン

#### ■ 新しい NetBackup の機能

Cohesity が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Cohesity 社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Cohesity 社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Cohesity 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

## SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 ( Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

[https://sort.veritas.com/eosl/show\\_matrix](https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix)

p.42 の「Cohesity Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

## プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 11.1 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

# 他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

## NetBackup の関連マニュアルについて

Cohesityは、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 11.1 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

---

**メモ:** Cohesity は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

---